

## 友の会主催 解説・鑑賞会

ミュージアム コレクション I

「山口勝弘と北代省三展 イカロスの夢」

解説:野田尚稔 学芸員

6月3日(土) 参加者22名

## 解説・鑑賞会に参加して

田崎秀信

山口勝弘のイカロスシリーズの絵を遠目に見て、それまで麻生三郎の画面を理解するのに疲れた私は「金魚の絵だ」と、ホッとしたところ、野田尚稔学芸員の解説・鑑賞会に参加し、世界大戦後、軋む体を復興にける日本社会の中で発生した「実験工房」グループを知りました。

紹介されたアーティストらが、今度は世界核戦争か…と恐怖を横目に、若く元気で好景気の波に目まぐるしく変化する社会から、膨大なエネルギーを得て、止まることのない連鎖反応、無限に上昇する世界を果敢に捉えて来た成果が、金魚と凧に凝縮されているのだと感じました。また、セルゲイ・ディアギレフの総合芸術的なバレエ団活動を想起させる活動が日本でもあったことや、戦争惨禍の合間に各界のアーティストが一緒に逞しく活動した背景を詳しく学びたいと思います。野田学芸員から、2013年の実験工房展の画集が2階のアートライブラリーにあることを教えていただき、美術館は多角的に何度も学べる、楽しめる仕組みであることを発見した次第です。



## 友の会主催 解説・鑑賞会

「マルク・シャガール 版にしるした光の詩」<sup>うた</sup>

神奈川県立近代美術館から

解説:三木敬介 学芸員

7月15日(土) 参加者56名

## 100パーセント版画作品展

渡辺久子

マルク・シャガールの版画作品が神奈川県立近代美術館から世田谷にやってきました。

色彩の魔術師と呼ばれているシャガールの作品は色使いがとても綺麗です。

彼はロシア生まれのユダヤ人。戦禍や革命に翻弄され海外に拠点を移しましたが、その事が彼の作品を深いものにしたようです。

画商から挿絵を提案され、『ラ・フォンテーヌ寓話集』を制作します。白と黒の作品です

が、線や点を効果的に活かして、豊かな色彩の広がりを感じさせます。

シャガールはギリシャを旅し、最高傑作とみなされる『ダフニスとクロエ』を発表します。空中を浮遊する超現実的な人物や動物は、同色系のグラデーションの中で独自の世界です。詩人でもあるシャガールの詩画集『ポエム』では木版画の中に布やコラージュを駆使し、遊びとこだわりが感じられます。『馬の日記』の線の表現、色との絡みが最高です。

とてもインパクトのある企画展で、解説の三木敬介学芸員のお話も分かりやすく良かったです。



## 友の会主催 解説・鑑賞会

ミュージアム コレクション II

「雑誌にみるカットの世界」

解説:伊藤まりん 学芸員

9月18日(月・祝) 参加者35名

## 「雑誌にみるカットの世界」展について

芦澤耕治

岩波書店の雑誌『世界』。1946年から1992年までに掲載されたカットなど多数が展示されており、例えば目次カットについては中川一政、小磯良平、加納光於など20人の作家のカット原面の展示とそれが実際に掲載された各号の目次展示もあって興味深い。日本の美術界を代表する作家達がカットとも関りがあるのは面白い。私は『世界』は時折買ったが、目次のカットをじっくり見た記憶がない。目には映じていた筈だが勿体ないことをしたなと思う。

一方の『暮しの手帖』。花森安治の雑誌制作30年間の軌跡がよく理解できた。1948年の『暮しの手帖』創刊号実物とその表紙原面の展示があった。原画は家具のある部屋で茶色の飾り棚、赤い傘を立てかけた椅子、小さい箆が描かれ赤と緑と茶色が基調の美しい絵だ。敗戦直後の混乱の中でこういう絵を描いた胆力に敬服するし、これを表紙画にした創刊号は花森が描く成熟した市民社会に向けた強いメッセージ性を感じる。

本展の企画は岩波書店、暮しの手帖社と土井藍生氏から多くのカット原画のご寄贈を受けたことがきっかけと聞く。担当学芸員の伊藤まりんさんは「カットは作家の余技ではなく、面白さと凄味すら感じる渾身のものがある」と解説された。最近の本や雑誌を開くとカットに目が向いている自分に気付く。



## セタ友日曜デッサン

講師:早矢仕素子

5月21日(日)~8月20日(日) 全4回 参加者27名

## セタ友日曜デッサンに参加して

松岡みどり

月1休日開催の講座が4回終わった。あつという間だった。デッサンとはなにかという講義から、立方体や石膏の基礎練習、そしてモデルデッサンまで、内容は幅広かった。参加者もベテランから初心者まで、実力はそれぞれだが、早矢仕先生の、その人に応じた確かなアドバイスやご指導により、各自学びが多かったことだろう。

今回の講座で、空気遠近法や2点消失法などを意識し、ものを面でとらえ明暗で表現することを練習しながら、私はなぜか中学高校の美術部の友人たちを数十年ぶりに思い出していた。根気よく写実する友人たちの実力の差に圧倒され、美術部入部を諦めた遠い記憶、だけど羨ましかったのだろう、遠くから眺めていた記憶。そんなかつてのほろ苦い気持ちを、2023年ようやく客観的に自覚でき、この日曜デッサンでもイーゼルに画用紙をセットするたびに、今絵を描ける自分を新鮮に感じていた。思いがけず自分に寄り添う時間になった。友の会の素晴らしい学びの場に感謝、継続講座におおいに期待している。



## 木彫刻講座

講師：三宅一樹

6月9日(金)～8月4日(金) 全9回 参加者20名

## 木彫刻講座に参加して

鵜飼恵子

まず最初、高さ60cm、重さ30kgの楠と対面した時、自分では持ち上げられないこんなに大きくて重い物体をどう扱えばいいのか、正直不安しかなかった事を思い返します。

しかし、やるしかない!と思い切り、いざ構想を練り出すと、立体表現である為いろいろな案が飛び出してきて楽しくなってきました。

三宅先生の的確なご指導、アドバイスがあり、諸先輩方がご親切で何でも教えて下さるので、疑問点はすぐに解消できて前に進んでいきました。一日中ノコギリをひいた時は、「彫刻とは体力が勝負」と言わざるを得ませんでしたが、一辺一辺切り落としてできる形が、段々自分の形に近づいていくのを実感して嬉しくなりました。本当に木彫刻は、時間と手間がかかる作業ですが、その分完成した時の達成感は大きいと思います。自分の手で創り出す喜びや木との対話を通じて生まれる感動は、他の講座とは一味違うように思えました。



## 木口木版画講座

講師：鬼塚満壽彦 西浦啓二

7月5日(水)～8月16日(水) 全7回 参加者15名

## 真夏の木口木版画講座

佐山とも子

友の会会員になって2年目に、うっすらと興味のあった木版木の講座のお知らせと出会い、やってみようかなと参加を決めました。木口の知識は全くありませんでしたが、講座初回にその歴史や特徴・技法について教えて頂き、作品の黒と白の色彩がつくる緻密で重厚な世界に、とても魅了され楽しみになりました。

制作では、版木を均一に硬くするアロンアルファの塗布や、ビュランでの彫り、ニードルや釘で凹ませる表現方法が難しく、構想を考えると丁寧に彫ることを繰り返しご指導いただきました。白・黒・グレーのみの表現は線1本・点1点の意味が大きく、特に黒は黙して出る効果があり、彫らない大切さもじわじわ感じるようになりました。摺りでも、インクの濃淡や紙の違いで仕上がりが変わり、出したい表現を工夫できて面白かったです。

真剣に大切に作品と向き合う講座のみなさんと一緒にできたことがとても良い経験でした。



## アートライブラリー通信

## 番外編 歴史ある古書オークションに潜入!

須藤美麗

「セタビや美術について調べたい時のヒント」をテーマにしてきた本コーナーですが、今回は番外編。前回ご紹介した「七夕古書大入札会」に潜入してきました!

「七夕古書大入札会」は、古書業者の同人組織である明治古典会が主催し、約60年続く日本最大級の古書オークション。通常は古書業者しか参加できませんが、年に1回、七夕の時期に行われるこの入札会は一般にも公開されています。古くは江戸期からの稀覯本や肉筆原稿、版画作品などの文化資料が出品され、なかには、美術館や文学館で展示されていてもおかしくはないものも。それらを間近で見て、触れて、古書業者を通じて入札もできる、そんな貴重な機会です。

今年も7月に神保町の東京古書会館で開催され、約1,400点が出品。今年注目の出品物の一つ、大江健三郎著『ヒロシマ・ノート』の取材時に作成された写真帖も実際に手に取ることができました。大江の代表作の取材背景が窺える貴重な記録にやや緊張。さらに、隣に陳列されていた当時の岩波書店社長宛の書簡には、現在ミュージアムコレクション展で紹介している『世界』(岩波書店)への大江の熱い思いが語られており、思わず見入ってしまいました。この他、宮崎駿監督『魔女の宅急便』の名場面のセル画や、手塚治虫の『リボンの騎士』の原画なども発見! 神保町でのお宝探しは好奇心を掻き立てる充実の時間となりました。

(世田谷美術館学芸部 司書)



「七夕古書大入札会」会場入り口

## 私のお薦めアート本



“GEORGIA O' KEEFFE AND HER HOUSES  
GHOST RANCH AND ABIQUIU”  
— Barbara Buhler Lynes and  
Agapita Judy Lopez



『ジョージア・オキーフとふたつの家  
ゴーストランチとアビキュー』  
— バーバラ・ビューラー・ラインズ、  
アガピタ・ジュディ・ロペス 著  
(内藤里永子 訳)

野田典子

コロナ禍直前の2019年に米国ニューメキシコ州サンタフェを訪れた。芸術品市場はニューヨークに次ぎ画廊が立ち並ぶ街と数十年前に知人から聞き、一度は行ってみたいと思っていた。市内にはジョージア・オキーフ美術館があり、近郊には晩年のオキーフが住居にした2軒の家があるが、そのことは行くまで知らなかった。

ニューヨークで成功を取めたオキーフは、1929年に初めてニューメキシコを訪れ、以降も写真家の夫アルフレッド・スティグリッツとの軌轢が生じるとこの地に来ていた。夫の死後、1949年には移り住んだものの当時のニューメキシコは荒涼としていて決して住みやすくなかったはずである。

ビジターセンターにあった多くの本の中から購入したのがこの一冊。オキーフというとなまず思い浮かべるのは大胆で官能的な花だが、驚くほどたくさん風景画も描いている。この本には風景画のインスピレーションとなった家の周りの自然が載っている。晩年のオキーフの姿もある。家を改築して水を引き、菜園では野菜を育て、虚飾のないシンプルな生活を始めたのだ。時には夜は屋根に梯子をかけて登りそこで寝たそう。

晩年視力をなくしたが、98歳で亡くなる数年前まで住み、ニューメキシコの自然を描き続けた。オキーフの生き様をこの本から知ることができる。

## みんなのギャラリー

## 《謀反人を探せ》2017年 戯画

関宗里



速水御舟に私淑し、墨彩画を学び、長く日本画を描いています。墨に五彩(魚・濃・中・淡・清)有り、妙味有りです。図は、6年前に自損事故で頸椎損傷という手足不随の重傷を負い、一生車いすと宣告されましたがリハビリの甲斐あって箸やペンが握れるまでに回復、食事の美味しい某リハビリ病院のベッド脇の小机で、筆ペン二本(青墨、水筆、紙コップの筆洗)で、左右別々に描いた色紙大画仙紙二枚を貼り合わせた戯画です。退院の迫った或日に《最後の晩餐》に見立てて描いたもので、安土城で信長と重臣の晩餐、テーブルには洋風好みの信長らしく鴨の丸焼きを供していますが、皆ナイフとフォークに困惑、髭の修理亮勝家どう切り分けていいのやら。家紋入りの袴を着た重臣には官名等の札を置き、後ろの地球儀や永徳の龍虎図等の襖絵、火灯窓の向こうには琵琶湖の帰帆、渡る雁が見えます。さて、現在は手足の痺れが残るも普通の生活と微力ながら友の会活動のお手伝い、浮世絵や郷土史研究も出来るようになりました。図にマントを羽織った信長の隣は正室・帰蝶、右端に家康、左側には秀吉等12名を配しましたが、信長を討った光秀は何処でしょうか？

## ミュージアムアテンダント

## MAの世田美エピソード

金森裕寿

展示室や受付、ミュージアムショップにて勤務をしている私たちは、「ミュージアムアテンダント(MA)」です。あえて「監視員」と呼ばないのは、来館者を見張るのではなく、快適に過ごしていただけるようアテンドする(案内する)ことが一番の役割であるからです。

日々の業務の中で、お客様から「素敵なお展示、美術館だった」というお声を聞かない日はありません。鑑賞教室でいらしたお子様が得意げにご家族に解説ツアーをしている姿をお見掛けし「頑張れ、小さな学芸員！」と心で応援することもあれば、ル・ジャルダンにて婚礼を挙げた方が「一生の思い出の美術館となりました」と朗らかに伝えてくださった時には、大変誇らしく胸がいっぱいになりました。私たちは、その日が皆様にとって最高の美術館体験となるよう「何かできることはないかな」とそっと見守っています。困ったとき、嬉しいことがあったとき、是非お気軽にMAへお声掛けくださいませ。(MAチーフ)



## 思い出の美術館

## 太田記念美術館

木暮絵理

今回、思い出の美術館について原稿をご依頼いただき、どの美術館についてご紹介しようかと、しばし悩みました。だんだん遠出も可能になってきている今日この頃、せっかくなので遠方の美術館でもいいかと思ったのですが、学生時代に2番目によく足を運んでいた美術館を紹介させていただきます。

原宿駅下車、表参道を通り、ちょっと横道に入ると、小ぢんまりとしたその美術館は原宿の喧騒を横目に静かにたたずんでいます。その美術館は、太田記念美術館。浮世絵を専門とする、小さな美術館です。浮世絵を展示するため、館内は基本的に薄暗く、展示室の中には畳敷きの上上がりや小さな石庭があり、いつ行っても落ち着いて時間を過ごすことができます。研究に疲れたとき、心落ち着かせたいとき、表参道の喧騒を歩くのに疲れたときなど、ふと足を向けていたのがこの美術館でした。しばらく足が遠のいてしまっていたのですが、これを機に、久しぶりに足を運んでみようかと思えます。(世田谷美術館学芸部)



## ご寄付のご報告及びお礼

会の存続と美術館支援のための寄付金が2023年10月末日現在、2021年1月からの累計で1,414,348円となりました。ご寄付及び会員更新をしていただいた皆さまに心より感謝を申し上げます。

匿名4名(前回以降)

会費と寄付金の郵便口座  
口座記号:001303 口座番号:119860  
名称:世田谷美術館友の会

## これからの事業について

- ◎ 秋の美術館めぐり 11/10(金)
- ◎ 会員作品展 11/15(水)～19(日)
- ◎ 分館ギャラリートーク
  - 清川泰次記念ギャラリー 11/25(土)
  - 宮本三郎記念美術館 2024/1/20(土)
  - 向井潤吉アトリエ館 2024/2/24(土)
- ◎ 油彩講座 2024/1/12(金)～3/1(金) 全8回
- ◎ 美術講座 2024/1/14(日)
- ◎ セタ友日曜デッサンⅢ 2024/1/21(日)～3/17(日) 全4回
- ◎ アート散歩 予定
- ◎ 解説・鑑賞会 世田谷美術館の展覧会ごとに開催

\*2023年度の各事業につきましては実施の詳細が決まり次第、会員の皆様にチラシや友の会ホームページ等でお知らせいたします。

## 世田谷美術館友の会に入会しませんか！

世田谷美術館エントランスにはラテン語で「藝術と自然は密かに協力して人間を健全にする」と彫り込まれています。館のサポーター・ファンクラブである友の会に入会し、生活に彩りを加えてみませんか。特典や入会手続きは下記へ。

お問い合わせは友の会事務局へ

入会案内(リーフレット)や下記ホームページもご覧ください。

Tel. 03-3416-0607

https://setabi-tomonokai.jp/

